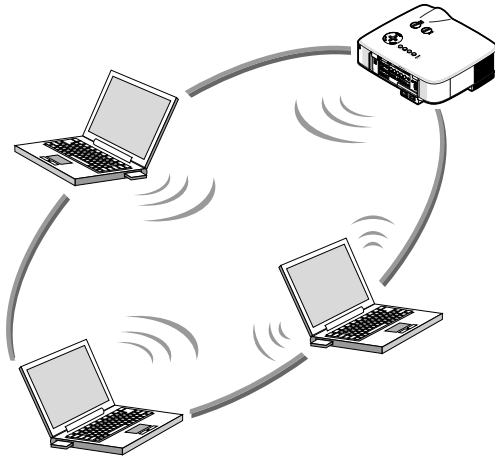


ViewLight[®] ビューライト NP3150J / NP2150J / NP1150J NP3151WJ

ネットワーク設定ガイド



1. User Supportware 5 で できること
2. 動作環境
3. LAN ケーブルを接続する
4. プロジェクター側のLAN の設定を行う
5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)
6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)
7. User Supportware 5 CD-ROM内の説明書について



User Supportware 5 CD-ROM内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

本書は、添付のUser Supportware 5 CD-ROM に収録しているソフトウェアを使用するためのLAN の設定について説明しています。

各ソフトウェアの操作方法については、User Supportware 5 CD-ROM 内の「基本操作ガイド」(PDF)をご覧ください。

はじめに

このたびは、NECデータプロジェクターNP3150J/NP2150J/NP1150J/NP3151WJ (以降NP3150J/NP2150J/NP1150J/NP3151WJ)を「本機」または「プロジェクター」と呼びます)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本機は、効果的なプレゼンテーションを行っていただけるように、次のような機能を持っています。

- LANポート(RJ-45)、無線LANユニット、USB ポート(タイプA)を標準装備
- Windows Vistaの「ネットワークプロジェクタ」および「リモートデスクトップ」に対応
- USB メモリ*1内の画像を表示するビューワ搭載

*1 本機にUSBメモリは添付されていません。

また、これらの装備を有効に活用していただけるように、5つのソフトウェアを収録した User Supportware 5 CD-ROM を標準添付しています。User Supportware 5 CD-ROM に収録しているソフトウェアは次のとおりです。

各ソフトウェアは、Windows Vista、Windows XP、Windows 2000 において動作します。

User Supportware 5 CD-ROMからパソコンへインストールしてお使いください。

- Image Express Utility 2.0
- Desktop Control Utility 1.0
- Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic
- Viewer PPT Converter 3.0
- PC Control Utility 3.0

本書は、これらのソフトウェアを使うためのLAN の設定方法について説明しています。ソフトウェアの操作方法は、User Supportware 5 CD-ROM に収録している「基本操作ガイド」および各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

パソコン側のネットワーク設定については、パソコンまたはネットワーク用の周辺機器の取扱説明書をご覧ください。

パソコン側の無線LAN カードは、Wi-Fi 規格のものを使用してください。

ご注意



- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では(3)項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

LANポートおよび無線LANユニット使用上のご注意

本機でLANポートおよび無線LAN ユニットのを使用する際は、次の点にご注意ください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。

警告

- 無線LAN ユニットの、医療機器、原子力設備／機器、航空宇宙機器、輸送設備／機器など人命に関する設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されていませんので、使用しないでください。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで無線LAN ユニットのを使用しないでください。
- 医療機器の近くで無線LAN ユニットのを使用しないでください。医療機器に電磁障害をおよぼし生命の危険があります。
- 無線LAN ユニットのを分解したり改造したりしないでください。火災や感電の原因となります。
- 風呂場や加湿器のそばなどの水分や湿気の多い場所に置いたり使用したりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。

注意

- 本機のLANポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。LANポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。

電波に関する注意

- 添付の無線LAN ユニット(以降「本ユニット」と省略します)は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって、本ユニットを使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本ユニットは、日本国内でのみ使用できます。
- 本ユニットは、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - ・ 分解/改造すること。
 - ・ 本ユニットに貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時は、2.4GHz 帯の電波を使用しており、この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。
 - ・ 本ユニットを使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
 - ・ 万一、本ユニットと「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本ユニットの使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
 - ・ その他、電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、NEC プロジェクター・カスタマサポートセンターにお問い合わせください。
- 本ユニットは5GHz帯域の電波を使用しています。5.2/5.3/5.6GHz帯域の電波は同時に出力されるため、屋外での使用は電波法により禁じられています。
- IEEE802.11aで使用するチャンネルは、36/40/44/48ch(W52)と、52/56/60/64ch(W53)と、100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch(W56)です。本ユニットは、従来のIEEE802.11aで使用する34/38/42/46ch(J52)の装置とIEEE802.11aモードでの通信はできません。

IEEE802.11b/g			
IEEE802.11a			
J52	W52	W53	W56

 - ・ W52(5.2GHz帯：36/40/44/48ch)、W53(5.3GHz帯：52/56/60/64ch)が利用できます。
 - ・ W56(5.6GHz帯：100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)が利用できます。
- W53(52/56/60/64ch)またはW56(100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch)を選択した場合は、法令により次のような制限事項があります。
 - ・ 各チャンネルの通信開始前に、1分間のレーダー波検出を行いますので、その間は通信

を行えません。

- 通信中にレーダー波を検出した場合は、自動的にチャンネルを変更しますので、通信が中断されることがあります。

- IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時は、2.4GHz 全帯域を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式および、OFDM方式を採用しており、与干渉距離は40m です。



- 2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線設備を示す。
- DS-OF : DS-SS 方式およびOF-DM 方式を示す。
- 4 : 想定される与干渉距離が40m 以下であることを示す。
- : 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

無線LAN 製品ご使用前におけるセキュリティに関する注意

無線LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
 悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
 ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
 メールの内容
 などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
 個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
 コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
 などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LAN ユニットや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

無線LANユニットの仕様

動作電源電圧	5V(プロジェクター本体から供給)	
消費電流(最大)	送信時:472 mA 受信時:300 mA	
規格	IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g ARIB STD-T66、ARIB STD-T71	
変調方式	CCK/DQPSK/DBPSK/OFDM	
ホストインターフェイス	USB 2.0(プロジェクター本体の無線LANユニット専用ポートで使用)	
LED表示(青色)	通信時:点滅 通信待機時:ゆっくりとした点滅 非動作時:消灯	
IEEE802.11a	周波数帯域/ チャンネル	[W52] 5.2GHz帯(5,150~5,250MHz) 36/40/44/48ch ※屋内限定 [W53] 5.3GHz帯(5,250~5,350MHz) 52/56/60/64ch ※屋内限定 [W56] 5.6GHz帯(5,470~5,725MHz) 100/104/108/112/116/120/124/ 128/132/136/140ch
	伝送方式	直交周波数分割多重(OFDM方式)
	伝送速度	54/48/36/24/18/12/9/6Mbps(自動 フォールバック)
IEEE802.11b	周波数帯域/ チャンネル	2.4GHz帯(2,400 ~ 2,484MHz) 1~13ch
	伝送方式	直接スペクトラム拡散方式(DS-SS方式)
	伝送速度	11/5.5/2/1Mbps(自動フォールバック)
IEEE802.11g	周波数帯域/ チャンネル	2.4GHz帯(2,400 ~ 2,484MHz) 1~13ch
	伝送方式	直交周波数分割多重(OFDM方式)
	伝送速度	54/48/36/24/18/12/9/6Mbps(自動 フォールバック)
外形寸法	28(幅)×11(高さ)×77(奥行)mm	
質量	19g	
使用環境	動作温度:5~40℃ 動作湿度:20~80%(ただし、結露しないこと) 保存温度:-10~50℃ 保存湿度:20~80%(ただし、結露しないこと)	

目次

はじめに	表紙裏
LANポートおよび無線LANユニット使用上のご注意	3
無線LANユニットの仕様	6
目次	7
1. User Supportware 5 ができること	8
1-1. Image Express Utility 2.0	8
1-2. Desktop Control Utility 1.0	10
1-3. Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic	11
1-4. Viewer PPT Converter 3.0	12
1-5. PC Control Utility 3.0	12
2. 動作環境	13
2-1. 対応プロジェクター	13
2-2. 無線LAN のセキュリティ機能について	13
2-3. 動作環境	14
3. LANケーブルを接続する	15
4. プロジェクター側のLAN の設定を行う	16
4-1. オンスクリーンメニュー(ネットワーク設定)を表示する	16
4-2. 無線LAN の場合	18
4-3. 有線LAN の場合	26
5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)	28
6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)	32
7. User Supportware 5 CD-ROM 内の説明書について	37
7-1. 「基本操作ガイド」(PDF)を表示する	37
7-2. ヘルプの使いかた	39

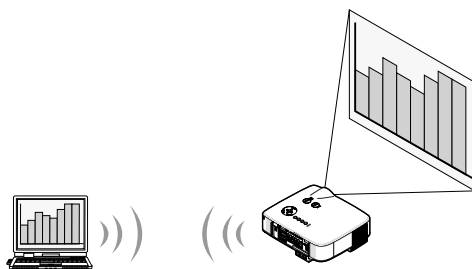
1. User Supportware 5 ができること

1-1. Image Express Utility 2.0

Image Express Utility 2.0 は、ネットワークを利用して、ケーブルレスでパソコンの画面をプロジェクターへ送信するソフトウェアです。

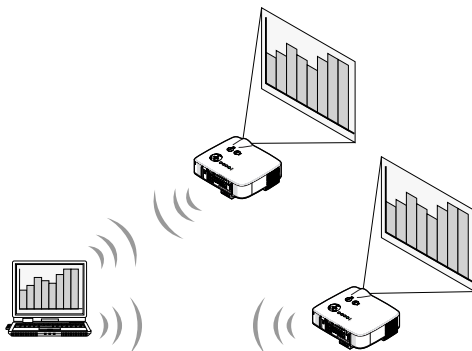
● 独自圧縮方式(スイートコンプレッション)による高速、高品位な画像送信

独自圧縮方式(スイートコンプレッション)の採用により、ほとんど画質を劣化させることなくパソコンの画面をコンパクトに圧縮します。それにより、ネットワークを経由して、高速にプロジェクターへ送信することができます。



● 複数のプロジェクターで同時投写が可能

1台のパソコンから、1台のプロジェクターへ画像を送信するだけでなく、複数のプロジェクターへ同時に送信し投写することができます。



● 簡単な設定で、無線LAN 接続を行う「かんたん接続」機能

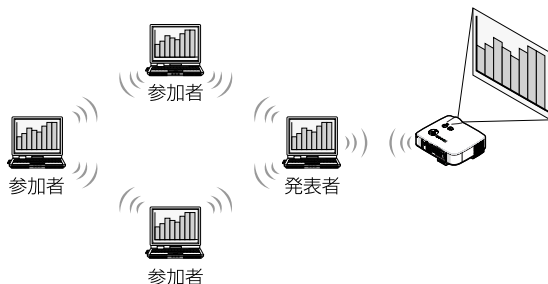
「かんたん接続」機能^{*1}を使用すると、複雑な無線LAN の設定を簡略化することができます。

*1 OS がWindows XP で「管理者」権限の場合に使用できます。OSがWindows Vistaの場合は、「管理者」のログオンパスワードの入力を求められることがあります。

Windows 2000 で使用する場合は「かんたん接続」機能は使用できません。

● プロジェクターで投写した画像を、パソコンへ送信／保存可能

「ミーティングモード」を使用すると、プロジェクターで投写した画像を参加者のパソコンへも送信できます。また、受信した画像は、メモ(テキストデータ)を付けて自分のパソコンに保存できます。

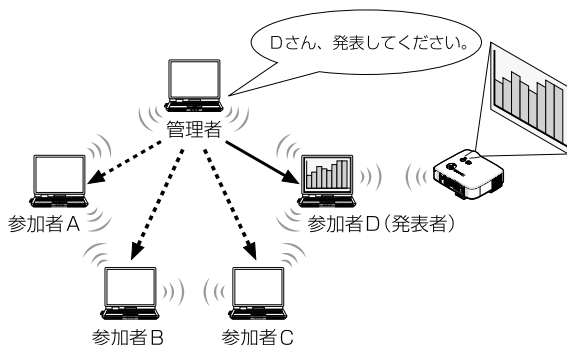


● 発表者の交代もワンクリックでOK

発表者を交代する場合でも、会議の参加者はボタンをクリックするだけで発表者の交代ができます。

● プロジェクターで投写するパソコン(発表者)を1台のパソコン(管理者)で集中管理可能

「発表者指定モード」を使用すると、1台のパソコン(管理者)からプロジェクターで投写するパソコン(発表者と参加者)を管理できます。プロジェクターで投写するパソコン(発表者)の切り替えや、プロジェクターとの通信の一時停止などの操作が行えます。



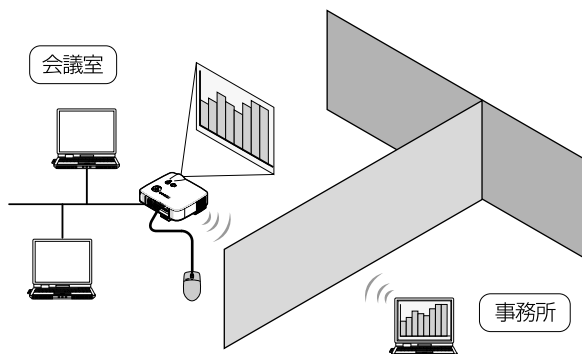
注意

「発表者指定モード」は、Image Express Utility 2.0 をインストールする際に、セットアップタイプ選択画面で「標準」を選択した場合にはインストールされません。「発表者指定モード」を使用する場合は、Image Express Utility 2.0 をインストールする途中に表示されるセットアップタイプ選択画面で「拡張」を選択し、「発表者指定モード(参加者)」または「発表者指定モード(管理者)」を追加してインストールしてください。

1-2. Desktop Control Utility 1.0

Desktop Control Utility 1.0 は、ネットワークを利用して、離れた場所にあるパソコンのデスクトップ画面をプロジェクターから操作するソフトウェアです。

- 市販のUSB マウスをプロジェクターに接続して操作します。
- 例えば、会議で発表するPowerPoint ファイルを事務所にあるパソコンに保存してあります。そこで会議の際に、事務所にあるパソコンと会議室にある本機がLAN で接続されていれば、本機を操作することによって、事務所にあるパソコン(Windows Vista/Windows XP/Windows 2000)のデスクトップ画面を投写し、会議で発表するPowerPoint ファイルを表示することができます。つまり、事務所にあるパソコンを会議室へ持ち込む必要がありません。



重要

- Desktop Control Utility 1.0 では、離れた場所にあるパソコンをネットワーク経由で操作します。そのため、無断で第三者にパソコンの画面(重要な資料)を見られたり、ファイルをコピーされたり、パソコンの電源を切られたりしないように十分注意してください。
当社は、Desktop Control Utility 1.0 使用中の機密漏洩、システム障害等に対して、いかなる責任も負いかねます。
- Windows の[コントロールパネル]の[電源オプション]の設定で、[コンピュータをスリープ状態にする]を「なし」に設定してください(Windows Vistaの場合)。Desktop Control Utility 1.0 を使用中に、パソコンがスタンバイ状態になると、LAN が切断されます。
- Desktop Control Utility 1.0 が起動中は、スクリーンセーバ機能がオフになります。

1-3. Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic

Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic(以降、本書では「Ulead Photo Explorer 8.0」と省略します)は、ユーリードシステムズ株式会社が開発したマルチメディア画像ファイル管理ツールです。画像ファイル管理機能以外にも、デジタルカメラやスキャナなどから画像を取り込み、画像加工や画質補正ができます。また、スライドショーやスクリーンセーバも簡単に作成できます。

- **User Supportware 5 CD-ROM に収録しているUlead Photo Explorer 8.0 は、本来のソフトウェアで使用できる機能に加え、当社製のプロジェクターと接続すると、より便利にプロジェクターを利用できる機能を追加しています。**

追加された機能は、次のとおりです。

各機能についての詳細は、Ulead Photo Explorer 8.0 のヘルプをご覧ください。

- **イメージ送信**
画像をプロジェクターへ送信します。
- **PowerPoint ファイル変換**
PowerPoint ファイルを画像ファイルに変換します。
- **ロゴ送信**
画像ファイルをプロジェクターのロゴデータとして登録します。
- **キャプチャ**
パソコンの画面を画像ファイルとして保存します。
- **スライドショー開始**
スライドショーの画像をプロジェクターへ送信し、プロジェクターでスライドショーを実行します。
- **ビューワ出力**
スライドショーをプロジェクターのビューワ機能で再生できるインデックスファイルに変換して出力します。
- **接続先選択**
接続するプロジェクターを選択します。

- **パソコンとプロジェクターとの接続手段には、有線LAN、無線LANがありません。**

1-4. Viewer PPT Converter 3.0

Viewer PPT Converter 3.0 は、PowerPoint 95/97/2000/2002/2003/2007 で作成したファイルを、プロジェクターのビューワ機能で再生できるインデックスファイルに変換するソフトウェアです。

- 変換するときに、インデックスファイルの保存先としてUSB メモリを指定します。インデックスファイルを保存したあとは、プレゼンテーションの際、プロジェクターにUSB メモリを差し込むだけで簡単にプレゼンテーションが行えます(プロジェクターのビューワ機能)。
- お使いのパソコンにPowerPoint 2000/2002/2003/2007 がインストールされている場合、PowerPoint からViewer PPT Converter 3.0 を起動することもできません(PowerPoint に自動的にアドイン登録されます)。

1-5. PC Control Utility 3.0

PC Control Utility 3.0 は、パソコンとプロジェクターをLAN(有線/無線)やシリアルケーブルで接続しているときに、パソコンからプロジェクターを操作するソフトウェアです。

- **パソコンからプロジェクターに対して次のような操作が行えます。**
各機能についての詳細は、PC Control Utility 3.0 のヘルプをご覧ください。
 - 電源のオン/オフ
 - 入力信号切替
 - ミュート(音声/映像を一時的に消す)
 - フリーズ(静止画にする)
 - ログ画像送信

2. 動作環境

2-1. 対応プロジェクター

User Supportware 5 は、次のNEC製プロジェクターに対応しています(2008 年3月現在)。

NPシリーズ	NP3150J/NP2150J/NP1150J/ NP3151WJ/NP905J/NP901WJ
--------	---

参考

ソフトウェアによっては、上記以外のプロジェクターに対しても使用できます。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

2-2. 無線LAN のセキュリティ機能について

本機は、無線LANのセキュリティ機能として、WEPに加えWPA-PSKおよびWPA2-PSK(暗号化の種類: TKIP/AES)を搭載しています。WPA-PSKおよびWPA2-PSKは、WEPを強化したセキュリティ機能で、暗号化キーを一定時間ごとに自動的に切り替える機能と、簡易認証機能をあわせ持っています。

- 本機のWPA-PSKおよびWPA2-PSKで使用できる暗号化の種類は、TKIPまたはAESです。
- WPA-PSKおよびWPA2-PSKは、通信モードが「インフラストラクチャ」のときに使用できます。

2. 動作環境

2-3. 動作環境

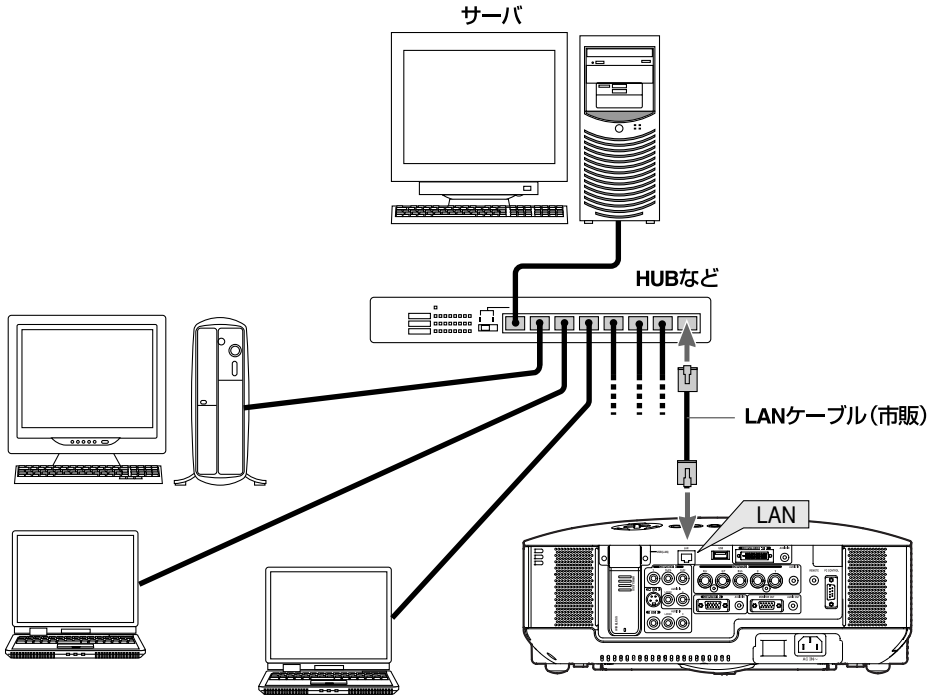
ここでは、Image Express Utility 2.0 の動作環境について記載します。その他のソフトウェアについては、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

対応OS	Windows Vista (32ビット版) Home Basic Windows Vista (32ビット版) Home Premium Windows Vista (32ビット版) Business Windows Vista (32ビット版) Ultimate Windows Vista (32ビット版) Enterprise Windows XP HomeEdition Service Pack 2 以降 Windows XP Professional Service Pack 2 以降 Windows XP Tablet PC Edition (Windows XP Tablet PC Edition Service Pack 2 以降) Windows 2000 Professional Service Pack 4 以降 ※Windows の省電力機能には対応していません。 ※「かんたん接続」は、Windows VistaまたはWindows XPの「管理者」権限に対応しています。
対応機種	IBM PC/AT 互換機 CD-ROM ドライブ必須 (インストール時に使用)
CPU	• Windows Vista Pentium 4/Pentium M 800メガヘルツ以上必須 1ギガヘルツ以上のデュアルコアCPU推奨 • Windows XP/2000 送信側パソコン Pentium MMX プロセッサ以上必須 Pentium 800 メガヘルツ以上推奨 受信側パソコン Pentium III 800 メガヘルツ以上必須 Pentium 4 1.6 ギガヘルツ以上推奨
メモリ	• Windows Vista 512 メガバイト以上必須 (1 ギガバイト以上推奨) • Windows XP 128 メガバイト以上必須 (192 メガバイト以上推奨) • Windows 2000 64 メガバイト以上必須 (128 メガバイト以上推奨) 同時に実行するアプリケーションによっては、さらにメモリが必要になる場合があります。
グラフィックプロセッサ (Windows Vista)	「Windowsエクスペリエンスインデックス」の「グラフィックス」のスコアが3.0以上推奨
ネットワーク環境	TCP/IP をサポートした有線LAN または無線LAN 環境必須
解像度	1024 ドット× 768 ラインを推奨 (NP3151WJ/NP901WJの場合は、1024 ドット× 768 ライン～1280 ドット× 800 ラインを推奨)
画面の色	High Color (15 ビット、16 ビット) True Color (24 ビット、32 ビット) ※256 色以下には対応していません。

3. LANケーブルを接続する

本機を有線LAN に接続する場合は、本機のLAN ポート(RJ-45)にLAN ケーブルを接続してください。

本機にLAN ケーブルを接続したら、本機にLANの設定を行ってください(● 16ページ)。



4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

参考

プロジェクター本体の電源の入/切、および操作ボタンやリモコンの操作については、「クイックスタートガイド」や「取扱説明書」をご覧ください。

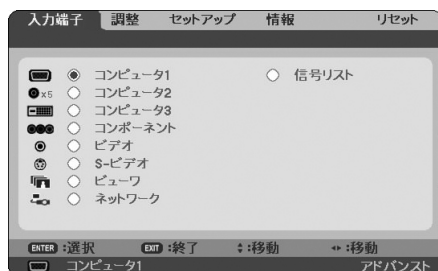
4-1. オンスクリーンメニュー(ネットワーク設定)を表示する

準備:

プロジェクター本体の電源を入れて、スクリーンに投写してください。
映像信号が選択されていなくても構いません。

1 (MENU) ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが表示されます。

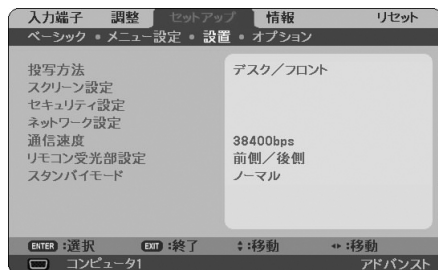


2 (SELECT) ボタンを押して、[セットアップ]にカーソルを合わせる。

3 (ENTER) ボタンを押す。

カーソルが[ベーシック]に移動します。

4 (SELECT) ボタンを押して、[設置]にカーソルを合わせる。



- 5 (SELECT ▼) ボタンを押して[ネットワーク設定]にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

ネットワークの設定画面が表示されます。

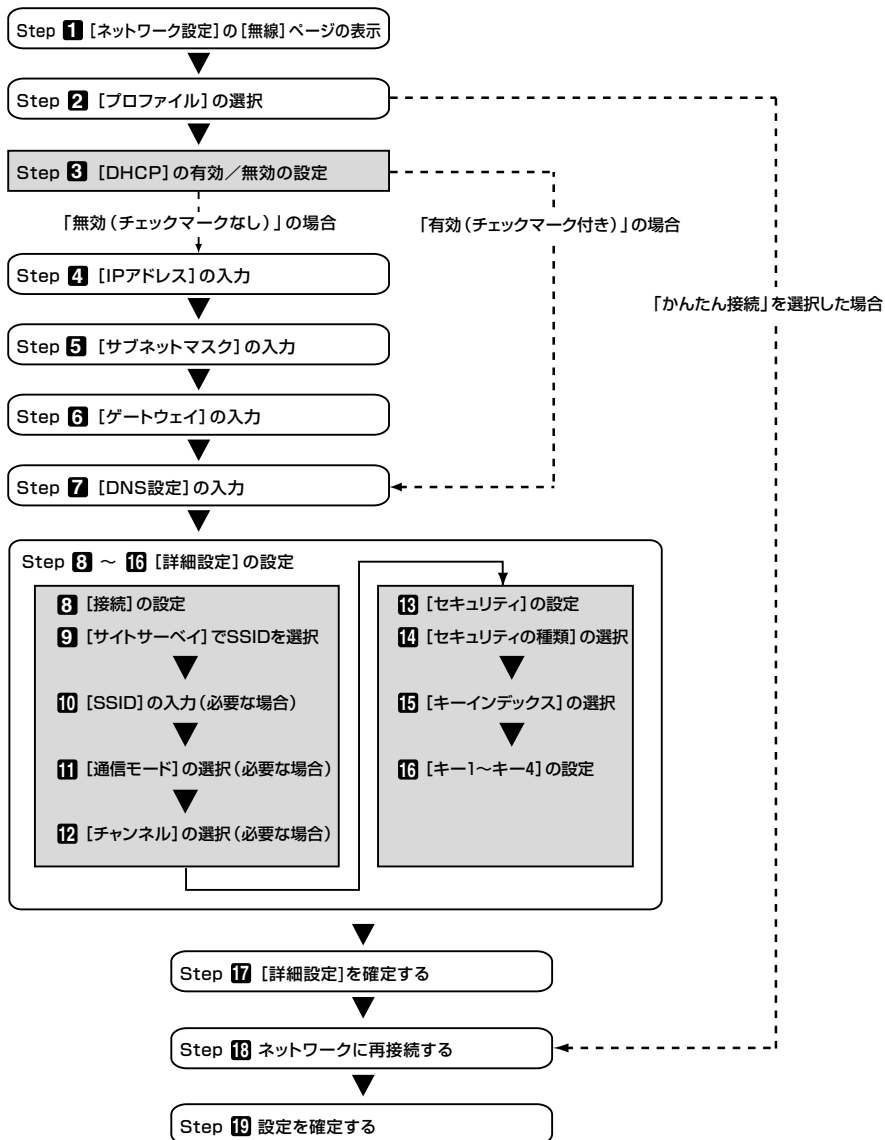


- 無線LAN の設定を行う場合
「4-2. 無線LAN の場合」(▶ 次 ページ)へ進んでください。
- 有線LAN の設定を行う場合
「4-3. 有線LAN の場合」(▶ 26ページ)へ進んでください。

4-2. 無線LAN の場合

無線LANを使用する場合は、オンスクリーンメニューの[ネットワーク設定] の[無線] ページで設定します。

■ 設定の流れ

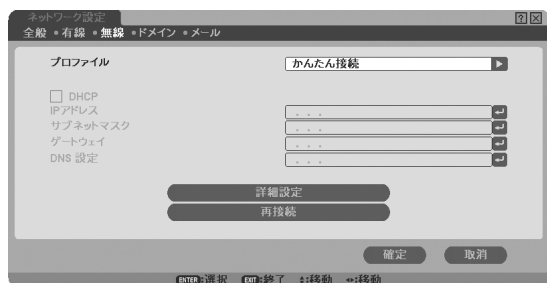


■ 無線LAN の設定を行う

1 [ネットワーク設定]の[無線]ページを表示する。

本機の無線LAN設定は、オンスクリーンメニューの[ネットワーク設定]の[無線]ページで行います。

- ① [ネットワーク]設定画面で[全般]にカーソルが合っている場合は、**(SELECT ▶)** ボタンを押して[無線]にカーソルを移動する。
[無線]ページに切り替わります。



- ネットワーク設定画面を表示していない場合は、「4-1. オンスクリーンメニュー(ネットワーク設定)を表示する」をご参照ください(16ページ)。

2 [プロファイル]を選択する。

- ① [プロファイル]欄にカーソルを合わせ、**(SELECT ▶)** ボタンを押す。
- ② **(SELECT ▼/▲)** ボタンを押して、「プロファイル1」にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
 - 本機のLAN の設定を「プロファイル1」、「プロファイル2」の2とおり、本体のメモリに記憶できます。
 - 「かんたん接続」は、User Supportware 5 CD-ROM に収録しているImage Express Utility 2.0 を起動しているパソコンと、簡単に無線LAN の接続が行えるモードです。「かんたん接続」は、Image Express Utility 2.0 以外のソフトウェアには対応していません。
 - 「かんたん接続」を選択すると、IP アドレスやサブネットマスクなどの設定を省略できます。「かんたん接続」を使用する場合、Windowsのユーザーアカウントは、「管理者」権限(Windows Vista/Windows XP)にしてください。Windows 2000 では「かんたん接続」は使用できません。

4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

3 [DHCP]を設定する。

本機を接続するネットワークがDHCP サーバによってIP アドレスを自動的に割り当てる場合、チェックマークを付けます。

① [DHCP]欄にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。

[DHCP]欄にチェックマークが付いていない場合は、チェックマークが付きます。

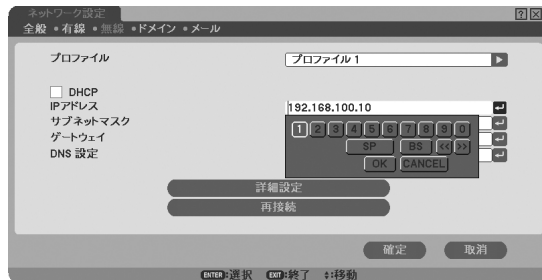
- チェックマークを外す場合は、もう一度**(ENTER)** ボタンを押します。
- [DHCP]にチェックマークを付けた場合は、[詳細設定]にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押します。続いて手順⑨に進みます(👉 22ページ)。[DNS設定]欄には、必要に応じて入力してください。
- [DHCP]にチェックマークを付けない場合は、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]、[DNS設定]の各項目を必要に応じて入力してください。項目の設定が終わったら、[詳細設定]にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押します。続いて手順⑨に進みます(👉 22ページ)。

4 [IP アドレス]を入力する。

[DHCP]にチェックマークを付けない場合、接続するネットワーク管理者から本機用に割り当てられたIP アドレスを入力します。

① [IP アドレス]欄にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。

文字入力画面が表示されます。



② **(SELECT▼▲▶◀)** ボタンを押して入力する数字にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。

文字が入力されます。

③ 手順②を繰り返して、IP アドレスを入力する。

文字入力画面の文字以外の項目は、次のような働きをします。

- [SP] …… スペースを入力します。
- [BS] …… [IP アドレス]欄の文字挿入位置の左側にある1文字を消します。
- [<<] [>>] …… [IP アドレス]欄の文字挿入位置を左右に移動します。
- [OK] …… 入力した文字を確認して、文字入力画面を閉じます。
- [CANCEL] …… 入力した文字を取り消して、文字入力画面を閉じます。

5 [サブネットマスク]を入力する。

[DHCP]にチェックマークを付けない場合、本機を接続するネットワークのサブネットマスクを入力します。

入力の方法は、[IP アドレス]欄と同様です。

6 [ゲートウェイ]を入力する。

[DHCP]にチェックマークを付けない場合、本機を接続するネットワークのデフォルトゲートウェイを入力します。

入力の方法は、[IP アドレス]欄と同様です。

7 [DNS設定]を入力する。

本機を接続するネットワークのDNS サーバのIP アドレスを設定します。

入力の方法は、[IP アドレス]欄と同様です。

【設定例1】

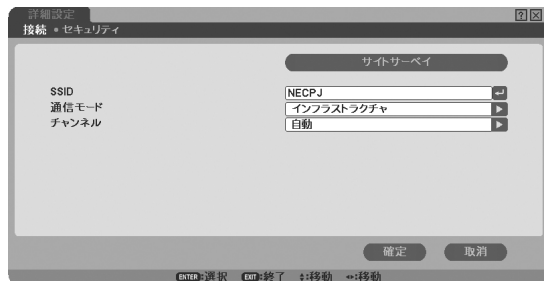
4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

8 [詳細設定]に切り替える。

無線LAN 特有の[通信モード]と[セキュリティ(WEPやWPA-PSKなど)]を設定します。

- ① [無線] ページで [詳細設定] にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

[詳細設定] 画面に切り替わります。



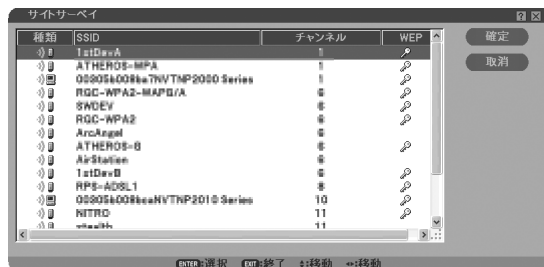
9 [サイトサーベイ]でSSID を選択する(必要な場合)。

その場所で接続可能な無線LAN のSSID のリストを表示し、リストの中から接続するSSID を選択します。リストの中からSSID を選択すると、[SSID] 欄と[通信モード] 欄、[チャンネル] 欄も自動的に設定されます。

- ① [サイトサーベイ] にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

SSID の検索が始まります。

SSID の検索が終了すると、SSID のリストが表示されます。



アイコンについて



無線アクセスポイント



パソコン(アドホック)



WEPまたはWPA-PSKの設定あり

- ② (SELECT ▼/▲) ボタンで、接続するSSID にカーソルを合わせ、(SELECT ►) ボタンを押して[確定]にカーソルを移動し、(ENTER) ボタンを押す。

接続したいSSID がリストに表示されていない場合は、(EXIT) ボタンを押します。

注意

WEPやWPA-PSKが設定されているSSID と接続するには、同一の設定をプロジェクター側にも行う必要があります(24ページ)。

10 [SSID]を入力／修正する(必要な場合)。

[サイトサーベイ]で選択したSSID が自動的に入ります。

また、[SSID]欄にカーソルを合わせ(ENTER) ボタンを押すと、文字入力画面が表示され、文字の入力／修正が行えます。

本機の工場出荷状態は、「NECPJ」と設定されています。

11 [通信モード]を選択する(必要な場合)。

[サイトサーベイ]で選択したSSID の通信モードが自動的に入ります。

[通信モード]欄にカーソルを合わせ(SELECT) ボタンを押すと、設定を変更することができます。

- 「インフラストラクチャ」… 無線アクセスポイントを経由して、有線LAN や無線LAN で接続されている複数の機器と通信を行うときに選択します。
- 「アドホック」…………… 無線アクセスポイントを使わず、無線LAN端末同士で通信を行うときに選択します。

「通信モード：インフラストラクチャ」の接続例

「通信モード：アドホック」の接続例

**12 [チャンネル]を選択する(必要な場合)。**

無線LANで通信するチャンネルを選択します。

近隣で使用している無線LANとチャンネル数が近いと通信速度が遅くなります。通信速度が遅いときは、離れたチャンネル数を選択してください。

本機の工場出荷状態は、「自動」に設定しています。

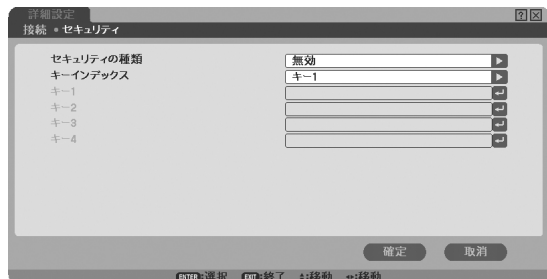
4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

13 [セキュリティ]ページに切り替える(必要な場合)。

WEP、WPA-PSKまたはWPA2-PSKを設定しない場合は、手順17に進みます。

- ① [接続]にカーソルを合わせ、(SELECT ▶) ボタンを押して[セキュリティ]にカーソルを移動する。

[セキュリティ]画面に切り替わります。



14 [セキュリティの種類]を選択する。

セキュリティを設定するかしないかを選択します。

セキュリティを設定する場合は、セキュリティの種類を選択します。

- 無効 …………… 暗号化を行いません。他人から通信内容を傍受されるおそれがあります。
- WEP(64BIT) …… WEP形式の暗号化を行い、秘密鍵に64bit長のデータを使います。
- WEP(128BIT) …… WEP形式の暗号化を行い、秘密鍵に128bit長のデータを使います。64bit長の秘密鍵に比べ、セキュリティが強化されます。
- WPA-PSK …… WPA-PSK形式の暗号化を行います。WEP形式に比べ、セキュリティが強化されます。
- WPA2-PSK …… WPA2-PSK形式の暗号化を行います。WPA-PSK形式を拡張した形式で、セキュリティが強化されます。

15 [キーインデックス]を選択する(WEP選択時のみ)。

WEP(64BIT)、WEP(128BIT)を選択した場合、次の「キー1」～「キー4」のどの暗号キーを使うかを選択します。

16 [キー1]～[キー4]を入力する(WEP選択時のみ)。

WEP(64BIT)、WEP(128BIT)を選択した場合、暗号キーを入力します。

無線LAN で接続する無線アクセスポイントやパソコンと同一の暗号キーを設定してください。2種類のキーを入力できます。

選択	英数文字 (ASCII)	16進数 (HEX)
WEP (64BIT)	5文字	10文字
WEP (128BIT)	13文字	26文字

参考

手順16でWPA-PSKまたはWPA2-PSKを選択した場合は、暗号化の種類(TKIPまたはAES)を選択し、キーを入力します。
キーは、8文字以上、63文字以下の英数文字を入力します。

- ① 暗号キーを入力する項目にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
文字入力画面が表示されます。



- ② **(SELECT ▼▲▶◀)** ボタンを押して、文字などにカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
文字が入力されます。

- 文字入力画面の文字以外の項目は、次のような働きをします。
 - [MODE] …… 英大文字、英小文字、特殊文字の切り替えを行います。
 - [SP] …… スペースを入力します。
 - [BS] …… カーソルの左側にある1文字を消します。
 - [◀] [▶] …… 英数字入力欄のカーソルを左右に移動します。
 - [HEX]または[ASCII] …… 英数文字入力と16進数入力を切り替えます。
 - [HEX]と表示されているときは、英数文字(ASCII)が入力できます。
 - 16進数を入力する場合は、[HEX]にカーソルを合わせ**(ENTER)** ボタンを押します。[HEX]表示が[ASCII]表示に変わり、16進数が入力できるようになります。
 - 16進数入力のときは、入力欄の先頭に自動的に「0x(ゼロエックス)」と表示されます。
 - [OK] …… 入力した文字を確定して、文字入力画面を閉じます。
 - [CANCEL] …… 入力した文字を取り消して、文字入力画面を閉じます。

- ③ **(SELECT ▼▲▶◀)** ボタンを押して、**[OK]**にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
入力した文字が確定して、文字入力画面が閉じます。

17 [詳細設定]を確定する。

- ① **[確定]**にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
[無線]ページに戻ります。

18 ネットワークに再接続する。

- ① **[再接続]**にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。

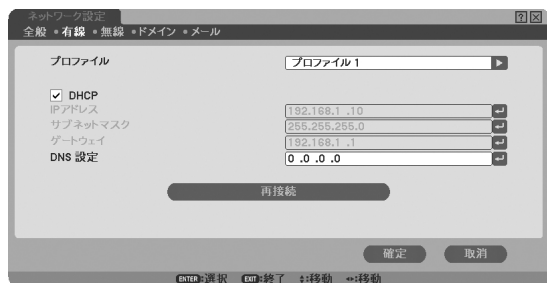
19 設定を確定する。

- ① **[確定]**にカーソルを合わせ、**(ENTER)** ボタンを押す。
設定内容がプロジェクター本体内のメモリに記憶されます。

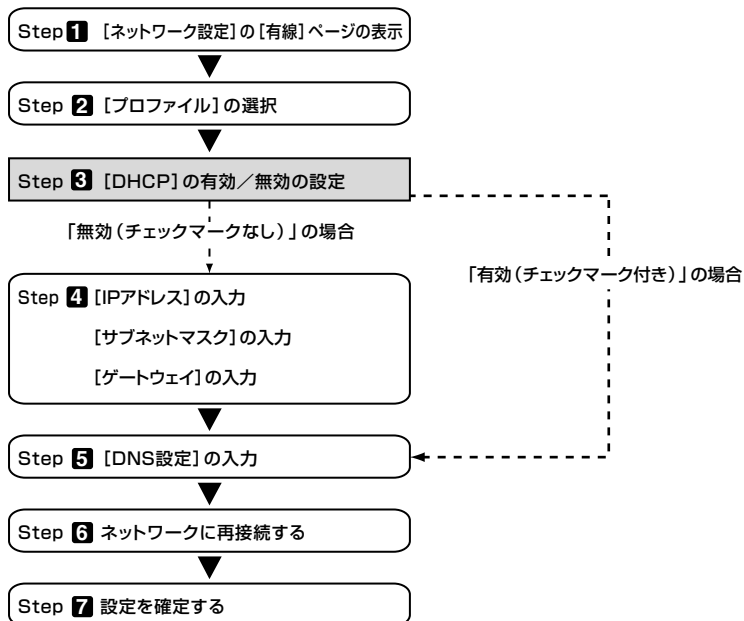
4. プロジェクター側のLAN の設定を行う

4-3. 有線LAN の場合

本機のLAN ポートにLAN ケーブルを接続して使用する場合は、オンスクリーンメニューの[ネットワーク設定]の[有線]ページで設定します。



■ 設定の流れ



■ 有線LAN の設定を行う

1 [ネットワーク設定]の[有線]ページを表示する。

本機の有線LANの設定は、オンスクリーンメニューの[ネットワーク設定]の[有線]ページで行います。[ネットワーク設定]画面が表示されていない場合は、「4-1. オンスクリーンメニュー(ネットワーク設定)を表示する」をご参照ください(● 16ページ)。

2 [プロフィール]を選択する。

本機のLAN の設定を「プロフィール1」、「プロフィール2」の2とおり、本体のメモリに記憶できます。

① [プロフィール]欄にカーソルを合わせ、(SELECT▶) ボタンを押す。

② (SELECT▼/▲) ボタンを押して、「プロフィール1」または「プロフィール2」にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

3 [DHCP]を設定する。

「4-2. 無線LANの場合」の操作と同様です(● 20ページ)。

4 [IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]を入力する。

「4-2. 無線LANの場合」の操作と同様です(● 20, 21ページ)。

5 [DNS設定]を入力する。

「4-2. 無線LANの場合」の操作と同様です(● 21ページ)。

6 ネットワークに再接続する。

① すべての設定が終わったら、[再接続]にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

7 設定を確定する。

① [確定]にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

設定内容がプロジェクター本体内のメモリに記憶されます。

5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)

ここでは、設定手順の例として、Windows Vista Ultimateの「ワイヤレスネットワーク設定」を使用して、パソコンとプロジェクターを無線LANのアドホック接続する手順について説明します。

準備 :

- お使いのパソコンに無線LANユニットが内蔵されていない場合は、市販の無線LANカードのドライバをインストールし、無線LANカードのセットアップを完了しておいてください。ドライバのインストール方法は、無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。
- Windows Vistaのタスクトレイの表示を確認し、無線LANユニットまたは無線LANカード専用のネットワーク接続ユーティリティが起動している場合は、そのユーティリティを終了してください。
- プロジェクター側の無線LANの設定を行ってください。設定方法は「4. プロジェクター側のLANの設定を行う」(● 16ページ)を参照してください。
ここでは、プロジェクター側の無線LAN設定を次のように設定した場合を例にしています。

【プロジェクター側の設定例】

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.100.10
サブネットマスク	255.255.255.0
SSID	NECPJ
通信モード	アドホック
WEP	64bit
キーインデックス	キー1
キー1	NECDS

1 Windows の[スタート]→[コントロールパネル]の順にクリックする。

コントロールパネルウィンドウが表示されます。

5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)

2 [ネットワークとインターネット]の下に表示されている[ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックする。

ネットワークに接続されていない場合は次のような画面が表示されます。



3 [ネットワークに接続]をクリックする。

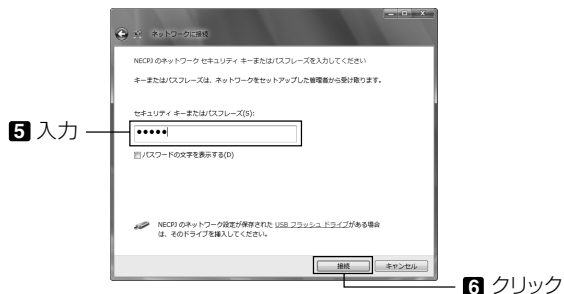
接続可能なネットワークの一覧が表示されます。



4 一覧の中から接続するプロジェクトのSSID(ここでは「NECPJ」)をクリックし、[接続(O)]をクリックする。

セキュリティキーを入力する画面が表示されます。

5 プロジェクターのWEP欄で設定したキー(ここでは「NECDS」)を入力する。



6 [接続]をクリックする。

5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)

- 7** 「NECPJに正しく接続しました」という画面が表示されたら、「このネットワークを保存します(S)」にチェックを付け、[閉じる(L)]をクリックする。

「ネットワークの場所の設定」画面が表示されます。

注意

- 「このネットワークを保存します(S)」にチェックを付けないと「リモートデスクトップ」機能が正常に動作しません。

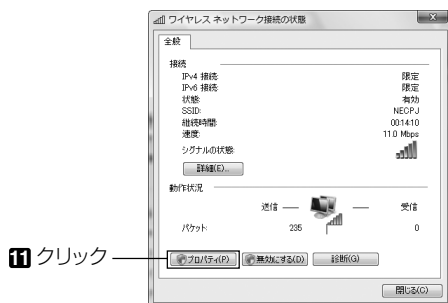
- 8** 用途に応じた場所(例えば「職場」)をクリックする。

- 9** 「ネットワーク設定が正しく設定されました」という画面が表示されたら、[閉じる(C)]をクリックする。

「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。

- 10** [状態の表示]をクリックする。

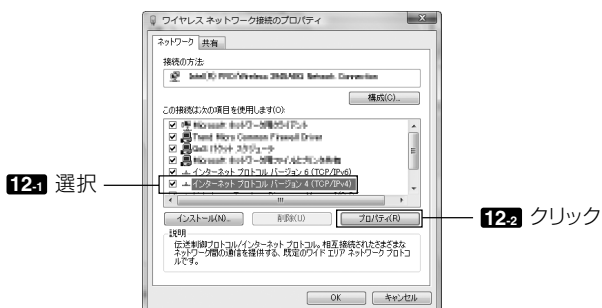
「ワイヤレスネットワーク接続の状態」画面が表示されます。



- 11** [プロパティ(P)]をクリックする。

ワイヤレスネットワーク接続のプロパティウィンドウが表示されます。

- 12** プロパティ画面の中央のリスト表示から「インターネット プロトコル バージョン4(TCP/IPv4)」をクリックし、[プロパティ(R)]をクリックする。

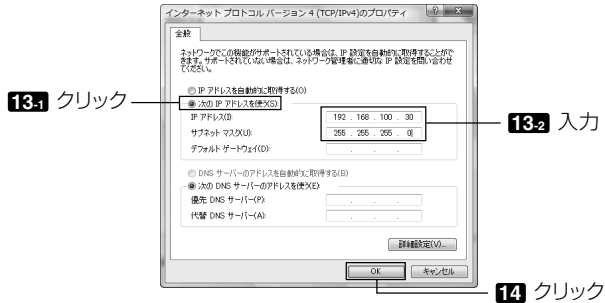


5. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows Vista の無線LAN : アドホック接続方法)

13 「次のIPアドレスを使う(S) : 」をクリックし、「IPアドレス」と「サブネットマスク」を入力する。

- 例えば、プロジェクター側の[IPアドレス]と[サブネットマスク]を28ページの設定例のように設定している場合は、パソコン側は次の画面例のように設定します。
- IPアドレスとサブネットマスクの設定例

	プロジェクター側 (28ページ)	パソコン側 (次の画面)
IPアドレス	192.168.100.10	192.168.100.30
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0



14 [OK]をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面に戻ります。

15 [閉じる]をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」画面に戻ります。

16 [閉じる(C)]をクリックする。

「ネットワークと共有センター」画面に戻ります。

17 ウィンドウ右上の[×]をクリックする。

ウィンドウが閉じます。

これで、パソコン(Windows Vista)側に、無線LANのアドホック接続の設定が終わりました。User Supportware 5 の各ソフトウェアを使って、パソコンの画面をプロジェクターに送信することができます。

6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)

ここでは、設定手順の例として、Windows XP Service Pack 2(SP2)の「ワイヤレスネットワーク設定」を使用して、パソコンとプロジェクターを無線LANのアドホック接続する手順について説明します。

準備 :

- お使いのパソコンに、市販の無線LAN カードのドライバをインストールし、無線LAN カードのセットアップを完了しておいてください。ドライバのインストール方法は、無線LAN カードの取扱説明書をご覧ください。
- Windows XPのタスクトレイの表示を確認し、無線LANカード専用のネットワーク接続ユーティリティが起動している場合は、そのユーティリティを終了してください。
- プロジェクター側の無線LANの設定を行ってください。設定方法は、「4. プロジェクター側のLANの設定を行う」(16ページ)を参照してください。
ここでは、プロジェクター側の無線LAN設定を次のように設定した場合を例にしています。

【プロジェクター側の設定例】

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.100.10
サブネットマスク	255.255.255.0
SSID	NECPJ
通信モード	アドホック
WEP	64bit
キーインデックス	キー1
キー1	NECDS

1 Windows の[スタート]→[コントロールパネル(C)]の順にクリックする。

コントロールパネルウィンドウが表示されます。

6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)

2 [ネットワーク接続]をダブルクリックする。

- コントロールパネルウィンドウがカテゴリの表示(ブルーの画面)の場合は[ネットワークとインターネット接続]をクリックしてから[ネットワーク接続]をクリックします。ネットワーク接続ウィンドウが表示されます。



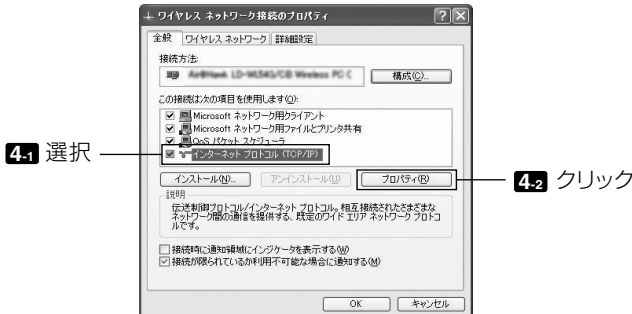
3 [ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ(R)]をクリックする。



「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面の全般タブが表示されます。

4 [この接続は次の項目を使用します(O) :]のリストの中から、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択(クリック)し、[プロパティ(R)]をクリックする。

「ワイヤレス ネットワークの選択」画面が表示されます。



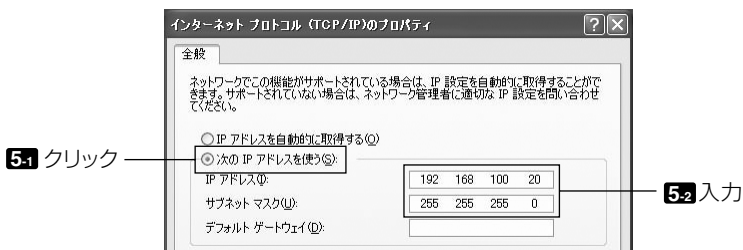
インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティウィンドウが表示されます。

6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)

5 [次のIPアドレスを使う(S) :]をクリックし、[IPアドレス]と[サブネットマスク]を入力する。

- 例えば、プロジェクター側の[IPアドレス]と[サブネットマスク]を32ページの設定例のように設定している場合は、パソコン側は次の画面例のように設定します。
- IPアドレスとサブネットマスクの設定例

	プロジェクター側 (32ページ)	パソコン側 (次の画面)
IPアドレス	192.168.100.10	192.168.100.20
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

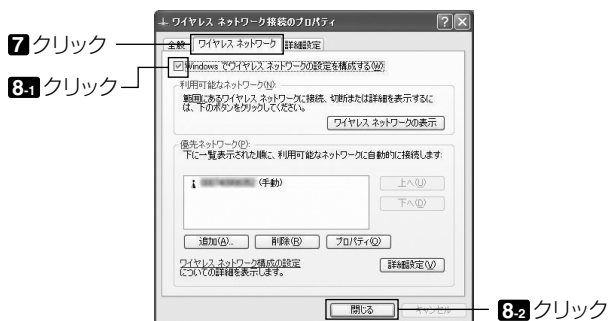


6 [OK]をクリックする。

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面に戻ります。

7 [ワイヤレスネットワーク]タブをクリックする。

8 [Windowsでワイヤレスネットワークの設定を構成する(W)]にチェックマーク(☑)を付けて、[閉じる]をクリックする。

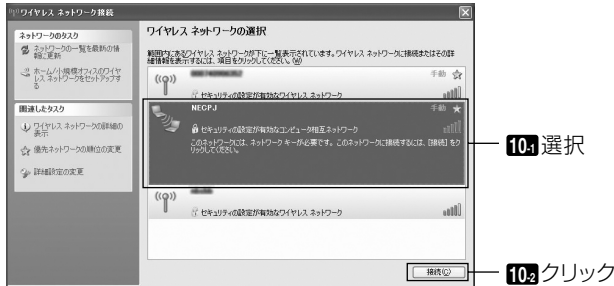


9 [ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックし、[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]をクリックする。



「ワイヤレス ネットワークの選択」画面が表示されます。

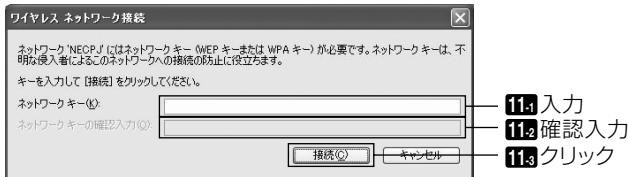
10 リストの中から、接続するプロジェクターのSSIDを選択し、[接続(C)]をクリックする。



ネットワークキーの入力画面が表示されます。

11 WEPキーを入力し、[接続(C)]をクリックする。

- 「WEP」の暗号化キーを入力します。例えば、プロジェクター側のWEPの設定を「64bit」に設定し、キーに「NECDS」と入力している場合は、ネットワークキー欄に「NECDS」と入力します。
- 確認入力欄にも同じように暗号化キーを入力します。



接続先のプロジェクターにWEPキーが設定されていない場合、この画面は表示されません。暗号化の設定を変更する場合は、次の手順で行います。詳しい手順についてはWindowsのヘルプファイルをご覧ください。

- ① 手順 10 の画面で「詳細設定の変更」をクリックする。
「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面が表示されます。

6. パソコン側のLAN の設定を行う (【例】Windows XP の無線LAN : アドホック接続方法)

- ② [ワイヤレスネットワーク]タブを選択する。
- ③ [優先ネットワーク(P)]からプロジェクターのSSIDを選択し、[プロパティ(O)]をクリックする。
選択したSSIDのプロパティ画面が表示されます。[アソシエーション]タブ内のワイヤレス ネットワークキーの設定をプロジェクター側の設定に合わせます。

これで、パソコン(Windows XP)側に、無線LANのアドホック接続の設定が終わりました。
User Supportware 5の各ソフトウェアを使って、パソコンの画面をプロジェクターに送信することができます。

7. User Supportware 5 CD-ROM 内の説明書について

User Supportware 5 の各ソフトウェアには、ヘルプファイルがあり、機能や操作方法を詳しく説明しています。

また、「基本操作ガイド」(PDF)には、各ソフトウェアの基本的な操作手順を丁寧に説明しています。

7-1.「基本操作ガイド」(PDF)を表示する

重要

- User Supportware 5 CD-ROM に Acrobat Reader および Adobe Reader は収録していません。お使いのパソコンでPDFが開けない場合は、アドビシステムズ(株)のホームページから Adobe Reader をダウンロードしてパソコンにインストールしてください。

- 1 パソコンの電源を入れ、Windows を起動する。
- 2 User Supportware 5 CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。
メニュー画面が表示されます。



- 3 [基本操作ガイドを表示する] をクリックする。

「基本操作ガイド」が表示されます。

このあとは、Acrobat Reader または Adobe Reader の操作方法に従って閲覧してください。

参考

メニュー画面が表示されないときは、次の手順を行ってください。

(※Windows Vistaのときの例)

1. Windows の[スタート] をクリックする。
2. [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
3. [名前(O)] にCD-ROM ドライブ名*1(例 : 「Q:¥」)と[SETUP.EXE] を続けて入力する。(例 : Q:¥SETUP.EXE).

*1 CD-ROM ドライブ名は、お使いのパソコンによって異なります。

4. [OK] をクリックする。

メニュー画面が表示されます。

7-2. ヘルプの使いかた

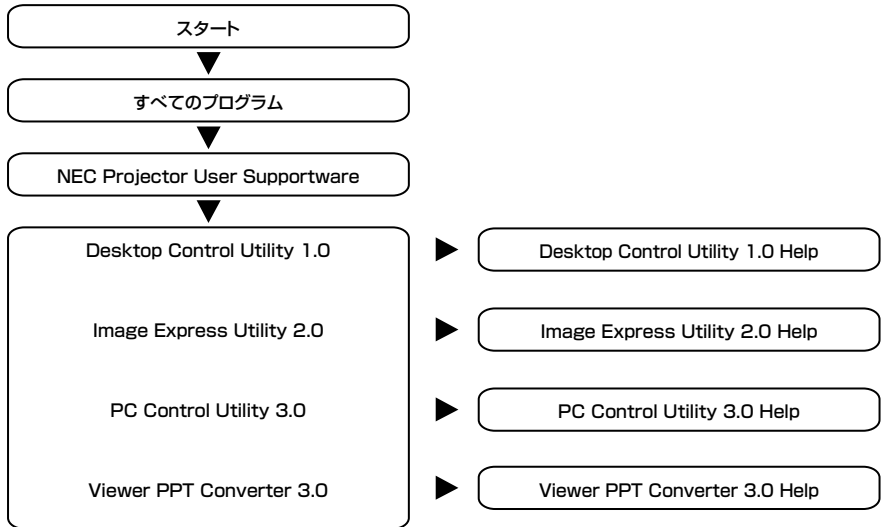
各ソフトウェアの詳しい操作方法は、ヘルプをご覧ください。

注意

- ここでは、Windows Vistaでの操作を例に説明します。
- ヘルプを表示する前に、User Supportware 5 CD-ROM からパソコンへ各ソフトウェアをインストールしてください。User Supportware 5 CD-ROM から直接ソフトウェアを起動したり、ヘルプを見ることはできません。

■ ヘルプの表示方法(Ulead Photo Explorer 8.0 以外の場合)

次の順にクリックして選択します。



参考

各ソフトウェアを起動し、そのソフトウェアの[ヘルプ]メニューまたは[ヘルプ]アイコンをクリックして、ヘルプを表示することもできます。

■ ヘルプの表示方法(Ulead Photo Explorer 8.0 の場合)

Ulead Photo Explorer 8.0 のヘルプは、ソフトウェアを起動し、[ヘルプ]メニューから選択して表示します。

- 1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic] →[Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic]の順にクリックする。

Ulead Photo Explorer 8.0 が起動します。

- 2 Ulead Photo Explorer 8.0 画面の[ヘルプ(H)]メニュー→[Ulead Photo Explorer のヘルプ(H)]および[NEC Projector User Supportware ヘルプ(P)]をクリックする。

■ ヘルプ画面の構成

[非表示] ボタン

左側のウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

[戻る] ボタン

1つ前に表示したトピックを表示します。

[進む] ボタン

[戻る] ボタンでトピックをさかのぼって表示した場合、直前に表示されていたトピックを表示します。

[印刷] ボタン

ヘルプを印刷します。

[目次] タブ

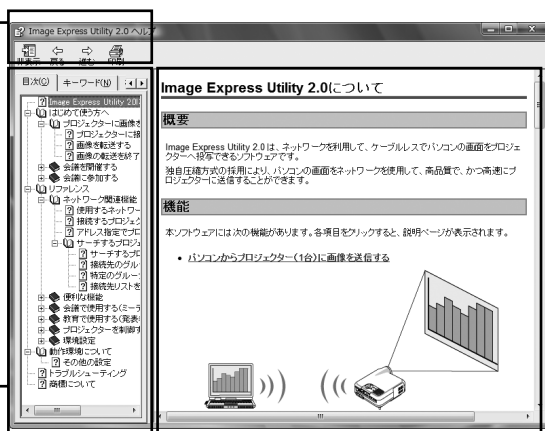
ヘルプの目次です。画面左側のトピックをクリックすると、右側にトピックの説明を表示します。

[キーワード] タブ

ヘルプ内のキーワード一覧を表示します。キーワードを選択すると、キーワードに対応した説明を表示します。

[検索] タブ

入力した言葉でヘルプ内容を検索します。



説明表示領域

左側のウィンドウで選択した項目の説明を表示します。

MEMO

MEMO

- スイートコンプレッションは、NECディスプレイソリューションズ株式会社の登録商標です。
- IBM、PC/ATは、米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- Intel、Pentium、MMXは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、MS、MS-DOS、DirectXは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Copyright (c) 2007 InterVideo Digital Technology Corporation. All Rights Reserved.

Corel、Corelロゴ、Ulead、Uleadロゴ、Photo Explorer、InterVideo、InterVideoロゴはCorel Corporationおよびその子会社の登録商標または商標です。

- その他本書に記載されているメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。



©NEC Display Solutions, Ltd. 2007-2008 Printed in Japan
NEC ディスプレイソリューションズ株式会社の許可なく複製・改変など
を行うことはできません。

NEC Projector User Supportware 5

- Image Express Utility 2.0
- Desktop Control Utility 1.0
- Ulead Photo Explorer 8.0 SE Basic
- Viewer PPT Converter 3.0
- PC Control Utility 3.0